

報告書抄録

| | |
|--------|--|
| ふりがな | こいずみゆきどめいせき こいずみあつこいせき-だいよじちようさ- こいずみあつこいせき-だいいちちようさ- そまだいけだいせき-だいいちちようさ- たかがもりじようあと |
| 書名 | 小泉行留遺跡 小泉アツコ遺跡 第4次調査 小泉アツコ遺跡 第5次調査 柚田池田遺跡 第4次調査 鷹ヶ森城跡 |
| 副書名 | 平成16・21年度 市道拡張工事に伴う発掘調査報告書 平成20年度 民間宅地造成工事に伴う発掘調査報告書 平成21・22年度 民間電波塔建設工事に伴う発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 今治市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第116集 |
| 編集者名 | 櫛部大作 |
| 編集機関 | 今治市教育委員会 |
| 所在地 | 〒794 - 8511 愛媛県今治市別宮町一丁目4-1 電話 0898 - 32 - 5200代 |
| 発行年月日 | 西暦 2013年3月 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 ° ' " | 東経 ° ' " | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|--------------------------------|---|-------|------|-------------------|--------------------|---------------------------|------|-------------------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| こいずみゆきどめいせき 小泉行留遺跡 | いまばりしこいずみ 今治市小泉2丁目甲595-1他 | 38202 | | 34° 03' 03" | 132° 58' 38" | 20050117 } 20050124 | 200㎡ | 市道拡張工事 |
| こいずみあつこいせき 小泉アツコ遺跡 第4次調査 | いまばりしこいずみ 今治市小泉2丁目505-1 | 38202 | | 34° 02' 53" | 132° 58' 36" | 20080401 } 20080415 | 210㎡ | 個人住宅建設 (擁壁・道路) |
| こいずみあつこいせき 小泉アツコ遺跡 第5次調査 | いまばりしこいずみ 今治市小泉2丁目558-2他 | 38202 | | 34° 02' 52" | 132° 58' 32" | 20091019 } 20091023 | 100㎡ | 市道拡張工事 |
| そまだいけだいせき 柚田池田遺跡 第4次調査 | いまばりしそまだあざにしのたにこう 今治市柚田字西ノ谷甲480番地 | 38202 | | 34° 05' 21" | 132° 57' 21" | 20100119 } 20100120 | 4㎡ | 民間電波塔建設 (基礎) |
| たかがもりじようあと 鷹ヶ森城跡 | いまばりしたまがわちようにぶかわあざ 今治市玉川町鈍川字タカケモリ庚28-4 | 38202 | | 33° 59' 26" | 132° 56' 46" | 20100413 } 20100424 | 20㎡ | NHK電波塔建設 (基礎) |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|------------------|------------------|----------|--------------------|---------------------------------|------|
| 小泉行留遺跡 | 集落跡 | 弥生、中世 | 溝、土坑、ピット | 弥生土器、土師器、石器 | |
| 小泉アツコ遺跡 第4次調査 | 集落跡 | 弥生、中世 | 溝、土坑、井戸、掘立柱建物跡、ピット | 弥生土器、古式土師器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器 | |
| 小泉アツコ遺跡 第5次調査 | 集落跡 | 中世、近世 | 自然流路、溝、土坑、ピット、近世墓 | 土師器、土師質土器、瓦器、陶磁器 | |
| 柚田池田遺跡 第4次調査 | 中世城館の一部?? 集落跡 | 古墳 古代 中世 | 溝、柱穴、ピット | 弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、陶磁器、鉄器、石器 | |
| 鷹ヶ森城跡 | 中世城館 | 中世 | 礎石建物、掘立柱建物、ピット | 土師質土器、鉄器、石器 壁土状土塊 | |

| | |
|-----|--|
| 要 約 | <p>小泉行留遺跡は、弥生時代を中心とする遺構が確認され、包含層は弥生時代・中世を基本とするものである。周辺には同時期の遺跡の広がりが考えられるものであった。</p> <p>小泉アツコ遺跡 第4次調査は、中世を中心とする遺構が確認された。但し、古代以降の溝から大量の弥生時代後期・終末から古墳時代初頭頃の土器が出土している。同遺跡第5次調査区同様、多数のピットの存在や井戸、掘立柱建物跡から、より集落遺跡の中心と見ることができている。</p> <p>小泉アツコ遺跡 第5次調査は、中世・近世を中心とする遺構が確認され、同遺跡第4次調査区同様、多数のピットが検出された。但し、弥生土器は検出されず、主として12世紀を下限とした集落の様相が強い。また上層では棺桶底部が残存する近世墓が検出された。</p> <p>柚田池田遺跡 第4次調査は、ごく狭い調査区ながら弥生時代中期後葉頃の堅穴住居が確認された。台地状の好立地条件なのか、包含層の堆積層は厚く、弥生時代から特に中世の遺物が多く出土している。特に白磁などの陶磁器も検出され、中世初頭頃(この周辺では活発な遺跡経営が行われていたものと考えられる)。</p> <p>鷹ヶ森城跡は主郭の一部を調査し、室町時代後半(戦国時代)の城郭遺構、遺物が確認された。遺構面は2面で構成され、下面では柱深1mを超える掘立柱建物があり井楼と考えられる。上面では礎石建物も確認され、本郭内でも手狭な面積調査であったものの、郭内でも重要な箇所であった可能性が高い。また土師皿など同期の遺物が多数出土している。</p> |
|-----|--|